

# T-60 マニュアル 1

## DEPTH

モジュレーションをかけたときのピッチの振れ幅を設定します。

-REGEN [alt parameter]

REGEN は、エフェクトのかかった信号を自分自身にフィードバックさせます。

共鳴するピークやノッチを作り、効果を強めます。

ラグとの相互作用が強く低めの LAG 設定で REGEN を使用するとムービングフィルター効果を強調することができます（これらのためには MIX が正午に設定されていることを確認してください）。

高い REGEN 設定は特に高い LAG を使用した場合、自己発振につながります。

しかし、これはユニットに害を与えるものではありません。

## CHOP

周期的 LFO の「サンプリングレート」を下げ、ランダム LFO がある出力値から次の出力値に移るまでの時間を短くすることができます。

周期 LFO のサンプルレートを下げると、階段状の波形になり、ピッチが上下に変化する際にビブラートにグリッチな小刻みなピッチジャンプが発生します。

ランダム波形のグライドリダクションは、より急激なピッチジャンプをもたらします。

スムーズで繊細なピッチの揺れから、コンピュータ・サウンドの領域へと導きます。

コンピュータ・サウンドの領域に入っていきます。

再生回数を増やしたり、ラグを長くしたりすると、この効果を強調することができます。

この効果を強調することができます。

-random [alt parameter]:

完全に独立した 2 つの LFO、ピリオディック LFO とランダム LFO をミックスします。

2 つの完全に独立した波形を同時に生成し、それぞれの出力バランスを調整します。

CCW: 純粋な周期的 LFO。サイン波とトライアングル波のミックス。

クラシックなコーラスやビブラートの音色に最適です。

CW: 純粋なランダム LFO。雰囲気のある、動きのないビブラートやコーラスに最適です。

コーラスに最適です。チョップを低くすると、テープを伸ばしたようなサウンドになります。高くすると、グリッチアウトされたコンピューターのようなサウンドになります。

## RATE

LFO のスピードを設定します。単純に、コーラス/ビブラートのモジュレーションのスピードです。

DIVISIONS [alt parameter]:

タップテンポの 4 つの分割を、反時計回りから時計回りに選択します。1/4、8 分音符、8 分音符、3 連音符。

このノブを回している間、LED インジケータは、新しい分割設定が行われるたびに点滅して変化を示します。

現在のテンポがタップで入力されている場合に限り、分割数を変更すると現在のテンポが更新されます。

分割数の設定を変更しても、Rate や Chop ノブの範囲には何の影響もありません。

ノブで設定した内容は変更されません。

## LAG

ウェット信号の生成に使用されるアナログディレイラインの残りのクロックスピードを設定します。

時計回り＝クロックが遅く、ラグが長く、ピッチの揺れが大きくなります。

反時計回り＝クロックが速く、ラグが短く、フィルターエフェクトの振り幅が大きくなります。

低い設定では、フランジングの中心となるスイープフェイズキャンセル現象が見られます（ミックスも正午前後に設定する必要があります）。

中程度に設定すると、より標準的なガラスのようなコーラス・サウンドになります。

長いと、ピッチの広いビブラートの領域になります。

## MIX

ドライとウェットのバランスを調整します。

## EQ

ウェット信号のみに適用するか、ドライとウェットの両方に適用するかを設定することができます（「DRY EQ」参照）。

このコントロールは、典型的なトーンスタック・スタイルのレスポンスではなくノブを下げていくとトレブルがロールオフされ、ノブを正午に設定すると出力は変化しません。時計回りに回すと低音を消して高音だけを残すことができます。

## DRY EQ

EQ ノブが全体の信号（ウェット+ドライ）に影響を与えるか、ドライ信号を残してウェット信号のみに影響を与えるかを選択します。

エフェクトがかかっている状態で、「Eng/Alt」フットスイッチをLEDが黄色に点灯するまで押し続け、「Tap/Ramp」フットスイッチをタップして切り替えます。

インジケータのLEDは、EQモードを示す色で3回点滅します。

赤：EQ設定がドライとウェットの両方に適用される

黄色：EQ設定はウェットのみに適用

## ENG/ALT フットスイッチ

素早く押して離すことで、エフェクトのエンゲージまたはバイパスを行います。

バイパス時にフットスイッチを2秒以上長押しすると、「モーメンタリー」になります。

つまり、最初に押したときにエフェクトが作動し、フットスイッチを押すと解除されるという「モーメンタリー」な作動が利用できます。

フットスイッチを離すと解除されます。

エフェクトがかかっている状態で、インジケータのLEDが黄色になるまで押し続けると

セカンダリーパラメーター (Regen、Divs、Random) にアクセスします。  
フットスイッチを押しながら、これらのノブを回して値を変更します。  
フットスイッチを離しても、これらのノブに関連するプライマリーパラメーターの設定は変更されません。セカンダリーパラメーターの設定は、電源を切ってもメモリーに保持されます。

#### TEMPO TARGET

LFO レートをタップするか、Chop レートをタップするかを選択します。タップ分割の選択は、どちらを選んでも適用されます。

Dry EQ の切り替えと同様に、エフェクトがエンゲージされている状態で、「Tap/Ramp」フットスイッチを押しながら「Eng/Alt」フットスイッチをタップします。

LED が 3 回点滅し、新しい設定を示します。

赤：タップテンポに合わせて LFO レートを設定

黄色：CHOP レートは、タップテンポが対象となります。

#### ステレオ・アウトプット

T-60 のステレオ出力機能を利用するには、出力に 1/4 インチ TRS ケーブルを使用します。

TRS ケーブルを使用します (2 つの出力を 2 つの入力端子に送る場合は、TRS-デュアル TS Y スプリッターを使用します)。

2 つの出力を 2 つの入力端子に送る場合は、TRS-TS Y スプリッターを使用してください。)

モノラル出力を使用する場合は、特別な配慮は必要ありません。